



遅れはに度ヒス  
るほ生理はメ  
傾平障軽シ  
向年害度ク  
が並であ  
みみであ  
らであ  
れあ  
た。果実肥大、糖度、食味、外観等  
熊本、鹿児島両県では「豊水」程  
の発生がみられたが、そのシ  
福岡、佐賀、鹿児島の各県ではナ  
福岡県からイノシシ、カラ  
の増加が報告された。

2) ブドウ  
発芽は総じて3～5日遅く、開花期は福岡、長崎県が  
早く、他県は平年並み～やや遅い傾向であった。成熟期は  
福岡県で8日早く、長崎県で16日遅かった以外は平年を  
果実収量は佐賀県のやや不作(前年比95%)を  
福岡、長崎、鹿児島県で豊作～やや豊作であった。  
肥大期の降水量が少なかった福岡、佐賀、長崎では  
肥大不良となったが、糖度は平年並み～高く、食  
味は平年並み～良、外観は平年並み～やや不良であ  
生理障害は福岡県でマンガン欠乏症であるゴマシオ果  
裂果が生じた以外には特になかった。病害は鹿児島に少  
島県でべと病、褐斑病の発生が多かった以外は全般的に  
発生であった。虫害は福岡、長崎、宮崎の各県でアザミ  
ウマ類の発生が多かった。

3) その他  
カキは収量が福岡県で平年並み、宮崎県で豊作(前年  
比150%)となった。両県とも発芽、開花期、成熟期は  
平年より遅く、果実肥大は不良であったが、糖度は平年  
並み～高く、食味、外観は平年並み～良であった。生理  
障害は福岡県で果実肥大期の過乾燥と降雨によるヘタ  
さ果、秋の高温による果実軟化の発生がみられた。虫害  
は宮崎県でフジコナカイガラムシの被害が目立った。  
モモの作況は福岡県で平年並み、宮崎県で豊作であ  
った。発芽、開花期は平年より遅かったが、成熟期は福  
岡県で3日早く、宮崎県で4日遅かった。果実肥大はや  
や不良であったが、食味、外観は平年並みであった。病  
害は少発生、虫害の発生は平年並みであった。  
クリは熊本県で前年比45%と不作であった。開花期、  
成熟期は平年並み、果実肥大、食味は良、外観は平年並  
みであった。病害は炭疽病による実腐れの発生がやや多  
く、虫害の発生は平年並みであった。

キウイフルーツの作況は福岡県で平年並みであった。  
発芽および開花期は平年並み、成熟期は平年より6日早  
く、果実肥大、糖度、食味、外観は平年並みであった。  
病害は少発生、虫害はカイガラムシの被害がやや多  
であった。

### 3. 熱帯果樹

パイナップルの沖縄県での作況は前年比75%と不  
作であった。果実肥大は不良、収穫時期は平年より約14  
日程度遅くなった。糖度などの果実品質は平年並みで、  
目立った病虫害の発生はなかった。

(果樹研究所カンキツ研究部 口之津 今田 準)